

# 祐善寺だより

第28号

発行日  
2012年7月10日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡越前町上糸生20-2 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170



漫然と生きていくのが  
一番いけない  
人間何か  
希望を持たねばならぬ  
希望は小さくてもよい  
自分独自のものであ  
れば  
必ずいつか  
それが光ってくる  
そして  
その人を助けるのだ

坂村真民

## 法句に憶う

住職 岡崎 賢

私たちは、坂村真民師のこの言葉をどう受け止めるでしょうか。人それぞれに、「私はきちんとした希望を持って生きていくよ」と答える人もいれば、「私は、この言葉のように漫然と日暮らしをしているなあ」と、答える人もあられるでしょう。

私たちが仏様からいただきたいのには、仏様からの願いが込められています。しかし、仏様から呼びかけられている願いに耳を傾けようとならない私たちの漫然とした生。そのような生き方を坂村真民師は、「一番いけない」と警告されているのです。

ところで、「希望」とは、なんでしょう？希望とは、大金持ちになることとか、無病息災で長生きすることとか、子供が志望大学に合格することとか……。ここで言う希望とは、そのような「現世利益」を叶えると言うことではないと思うのです。しかし、現代のように何もかもが不透明な時代社会を生きている私たちには、ひとときの「安心」を求めて、占いや祈祷に走り、カルト宗教に吸い込まれていく人が多いのも現実です。

あくせくした日常性に追われ、我が身を省みずに漫然と生きていく私たち。他との比較の中にしか生きられない私たちの傲慢な生。よくよく考えてみるに、その生の現実、実にみじめなものであるのです。

親鸞聖人が、それぞれの人が自分の「後生あきりごの「大事だいじ」を明らかにせよ、との問いかけは、まさに、坂村真民師の言う「希望」を持つて生きるということに違いありません。

# 絆強いぞ！

# 四世代マラソン完走！！



かとう あおと

マラソンたいかいでるのは、はじめてで、ドキドキしました。二キロは、とてもながくて、とちゅうでおなかがいなくなっただけれど、ちらをふりしほってさいごまで、がんばってはしりました。ママとてをうないでゴールできて、うれしかったです。

またらいねんも、みんなではしりたいです。

加藤 由香里

息子が生まれた時から祖母に、「四世代で走ろう！」と、言われていました。今回のつじマラソンで実現できるとは思っていませんでした。祖母はいつもパワフルで元気なので、つい歳を忘れてしまいましたが、気付けばもう八十歳…。三キロ歩くのも大変なはずなのに、完走するのは、本当に我が祖母ながら頭が下がります。来年も四世代で走れるよう、いつまでも元気でいてほしいと思います。そして、いつも笑顔で、周りを明るくしてくれる、祖母の前向きな姿勢

を見習って、私もこれから何事にも前向きな気持ちで取り組んでいきたいと思っています。

四世代マラソンを終え、祖母があつこの母、その母があつこの自分、そして息子……と、次々と命のリレーが続いていることを実感しました。自分の命が、決して自分の物だけではないこと、祖先があつてこそ自分だということに改めて気付き、今、健康で、何不自由のない生活をさせてもらえることが、当たり前ではないのだと、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、生かされているこの命を大事に、そして、息子からまたその子供へと、私もまた、命をつなぐリレーの一員として、次世代の為の子育てができるよう、努力していきたいと思っています。

加藤 智江

スポーツには全く無縁だった私が、ふとしたきっかけで三十歳の頃よりマラソンデビューをしました。マラソン大会には家族皆が応援に来てくれ、又、ある時の駅伝大会では中継点の近くに張ってあるロープを潜り

五月十三日(日)に実施された鯖江つじマラソンに、ご門徒の松島静子さん、娘の加藤智江さん、孫の由香里さん、ひ孫の蒼翔くんの四世代がそろって出場し、完走されました。四人の皆さんに感激を語っていただきました。

抜け、声を張り上げ命がけて応援してくれ、今も尚、母の姿が思い起こされます。いつの頃からか、親子がと三世代で走る様にもなり、(今度はひ孫と一緒に走りたい。)との母の熱き思いが、この度のつじマラソンで実現出来た事が感謝でなりません。常にひたすら希望を持って挑戦していく事の大切さを、まだまだ元気な八十歳の母から勇気づけられたと思います。

今後とも人との絆を大切にしながら、無限なる人生のゴールに向かっ

て、ひた走り抜いてまいります。

松島 静子

五月十三日のつじマラソンに四世代で走りたい。と思い、それを目標に走り続けて来た事が今回のつじマラソンで実現出来、夢の様でした。走る前日まで、(腰の具合が悪くて走れない……)と、諦めていました。

当日、家族の応援に行こう。と、思い、会場に行くと、大勢のランナーのさつそうとした姿を見て、(これは、どうしても走りたい。)との思いが強くなり、受付でゼッケンを付けて貰い、走る態勢になりました。

走っていると沿道で大勢の人が「ガンバレー、ガンバレー。」と、応援してくれましたので、そこで力を貰って「有難う、ガンバルゾー、ガンバルゾー。」と、手を振りながら、完走出来ました事は、皆さんのお陰様です。

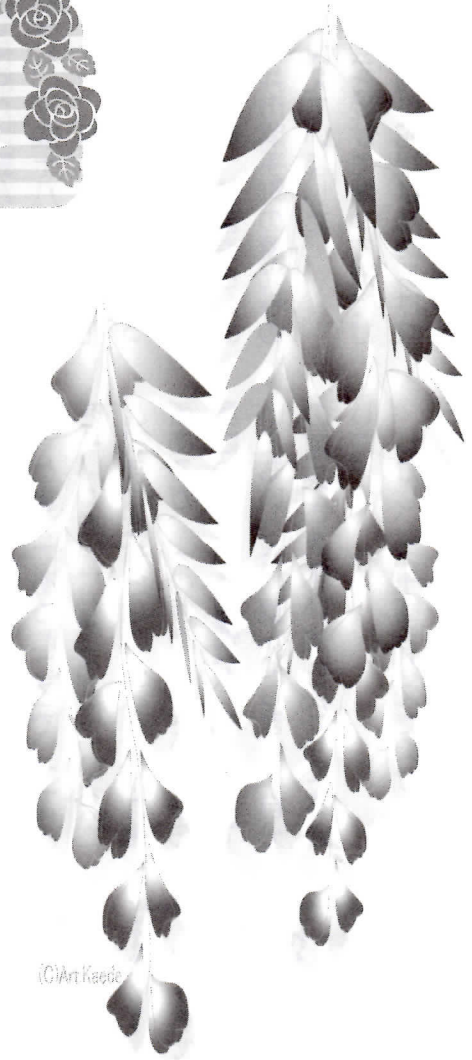
走り終えた時のあの時の何とも言えない嬉しさは一生忘れる事は出来ません。こうして、走れた事も親から元気な体を頂いたお陰様だと感謝しています。走り終えて、孫の家で三人のひ孫達と家族全員で喜び合いました。

これからも、元気でずつと、みんなと一緒に走り続けたい、と思います。



マラソンを完走した松島家・加藤家四世代の皆さんの笑顔 (写真: 福井新聞社提供)

# 花だより



花になるなら

花になるなら藤の花  
心優しく気は低く  
人が集まり友達増える

花になるなら桐にはなるな  
上見てばかりで足下忘れ  
友達去って我のみ残る

花になるなら藤の花  
心は強いが風に揺れ  
人に寄り添い笑顔にさせる

(軍)



## 平成24年度護持費の志納よろしくお願いします

祐善寺を永代に互って護持していただくために、護持費をお願いしておりますが、今年も次のとおりご志納下さいますようお願いいたします。

### ◇護持費の使途

- ・ 報恩講の厳修費や教化事業の実施
- ・ 本堂を守る火災保険や環境維持費用
- ・ 本山相続講、福井教区賦課金等
- ・ その他

### ◇年額

一戸平均 一〇、〇〇〇円

### ◇志納方法

- ・ 寺へ直接志納する
- ・ 秋まわりや法事で住職が貴家を訪問の際に志納する
- ・ 地区の役員さんに志納する
- ・ 郵便振替口座  
(〇〇七七〇―九―三〇七二―)

・ 加入者(祐善寺)

へ振り込む

### ◇志納期限

毎年十一月末日

投稿

無量寿経を詠み

続けていて思うこと

島 助右工門

我が家は、祖父も父も僧職をしていました。父は天与の高い声だったので、多くのお寺さんに可愛がって貰っていましたし、近郷近在で、正信偈などの唱和練習会があると、先生として招かれて行っていました。

また当時、村では、月に一回お講様という各戸が持ち回りで、集まってお勤めをしてから、御飯をよばれて帰る行事もありました。

そんな環境下で育った私は、子供の頃から正信偈は覚えていましたし、阿弥陀経も何回かは読んでいました。

近年になり、平成十八年の秋だったと思いますが、福井の東別院で正信偈と阿弥陀経の読誦練習会が有ったので出席して来ました。その時は祐善寺の坊守さんや、祐善寺さんの遠縁になる福井市照手町の順光寺の坊守さんも見えていました。

その講習会を受けて帰って来てから、自分は、阿弥陀経は読めるけれど、観無量寿経も無量寿経も全然だめ、せめて次は観無量寿経をすらすらと読めるようになりたいと思いい立ち、練習を始めました。始めてから二ヶ月ほど経ってから、どうせするなら無量寿経の練習をしようと思いが変わり、平成十九年の二月七日から始めました。

練習を始めてから現在までに四年有余、祐善寺は勿論、東別院や吉崎別院で、また京都の本山でも、平成十九年の七月と、二十一年の七月の二回の上山奉仕時に何回か読誦して来ました。

バスや電車などの待ち時間にも読み続けてきました。

そして平成十九年に千回、二十年に二千回、二十一年に三千回、二十二年の五月に四千回、二十三年二月に五千回を超えました。

回顧すると、お経本の中に、「一切」と書いてあるところで、「一切を「いつさい」と読まずに「いさい」と読まねばならないところが十九箇所あるが、一の字を、小さい時から身につけている習慣で、気をつけていてもいつさい読んでしまい、自分の阿呆さを思い知らされてきました。

しかし、三千回を越えた頃からは、そこも引つかからずに、すらすら読めるようになり、あえぎながら山道

を登っていて、峠を越えた時のような、やれやれという気持ちになりました。

そしてその後は淡々と読み続けています。

二年程前、東別院の月例法話で、御講師が、その寺の亡くなられた門徒さんが生前読み続けておられた読

おくやみ

野村キヨノ様（鯖江市）には、平成二十三年十月十九日、行年八十二歳にて往生の素懐を遂げられました。

御生前中の御功勞に、心より深謝申し上げます。



谷口千代子様（福井市）には、平成二十四年三月三十一日、行年九十三歳にて往生の素懐を遂げられました。

御生前中の御功勞に、心より深謝申し上げます。



み破れた阿弥陀経本を持って来て見せて下さった。その時、自分のお経本も大分古くなって折り目が干切れてきたが、生涯かかっても、其のお経本のようににはならないだろう、其の篤信家を見習わなあかな、と思います。今も思っています。



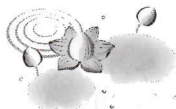
田中 隆様（福井市）には、平成二十四年五月十三日、行年八十三歳にて往生の素懐を遂げられました。

御生前中の御功勞に、心より深謝申し上げます。



木村 昇様（福井市）には、平成二十四年五月十九日、行年九十二歳にて往生の素懐を遂げられました。

御生前中の御功勞に、心より深謝申し上げます。



# 第3回 御伝鈔(上)講座

範宴少納言公と号す。自爾以来、しばしば南岳天台の玄風をとぶらいて、ひろく三観仏乗の理を達し

範宴少納言という公名を称した。それ以来、じつくりと奈良の諸寺や比叡山を訪れて高遠な教学を学んで広く仏教学の真髄にまで達し

とこしなえに楞嚴横河の余流をたたえて、ふかく四教円融の義に明かなり

長らく横川の恵心僧都の法流に親しみ、仏教の教義に大変明るくなったのである。

## 第二段

建仁第三の曆春のころ、聖人二十九歳、隠遁の二山を遊しにひかれて、源空聖人の吉水の禅房に尋ね参りたまいき。

建仁三年春、聖人は二十九歳にて、あらためて隠遁の志に引かれて比叡山から下りて、法然上人の吉水の禅房をたずねられた。

「御伝鈔」(本願寺聖人伝絵)とは—

浄土真宗の宗祖、親鸞聖人の生涯を絵詞に著したもので、詞は、親鸞聖人の曾孫である覚如上人(本願寺第三世)の撰述です。親鸞聖人の没後・三十三年の永仁三年(一二九五年)に十三段からなる初稿本が作られました。建武三年(一二三六年)の戦火により本願寺と共に、焼失してしまいました。康永二年(一二九六年)に書き直されるのを機に、御伝鈔と御絵伝を別仕立てにされ、上巻八段・下巻七段の十五段と二段増補されました。詞の部分「御伝鈔」、絵の部分「御絵伝」と呼び、各寺院の報恩講において「御絵伝」を余間に奉掛し、厳肅に「御伝鈔」が拝読されます。

其の24



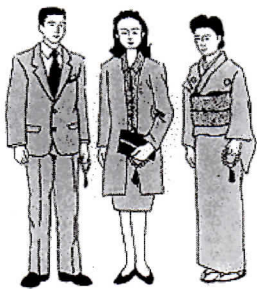
## 葬儀と迷信

通夜がつとめられ、明ければ葬儀をいとなむこととなります。

葬儀とは、身近な人の死という現実を誰にもさげられない事実として真剣に受け止め、亡き人との別れを告げる儀式といふことにとどまらず、その人の生涯を偲びつつ、私たちの生きる意味を仏さまの教えに問いたずねていくという厳肅な儀式です。

にもかかわらず、葬儀(枕勤めや通夜などを含みます)には、仏教とは無縁で、逆に人の心を惑わす迷信や奇習(きしゆつ)などが、実(まこと)しやかに行われるのを多く見かけます。

例えば、魔除けと称する守り刀をお棺の上にのせる、一膳飯(いちぜんめし)やお水を供える、出棺の際にお棺を三回まわす、生前愛用していたお茶碗を割る、火葬場の行き帰りの道を変え、火葬場の飲食の残りはす



る、火葬場の行き帰りの道を変え、火葬場の飲食の残りはす

べて置いて帰らなくてはいけない、日本酒を「お清め」と称して飲むことなどです。また、その「お清め」ということで申すならば、ほとんどの通夜・葬儀の際には、お礼状とともに「清め塩」と書かれた小袋が会葬者に渡されています。この「清め塩」で、何を清めようというのでしょうか。

もしそれが、死の穢(けが)れを清めるといふ意味であれば、亡き人は穢れたものとなり、葬儀自体も穢れた行為となってしまう。生前に親しかった人も、亡くなれば「穢れたもの」として「お清め」することは、全く道理に合わない、痛ましいことです。

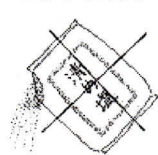
果たして死者は、穢れているのでしょうか。仏教では、決して「死」を「穢れ」と受け止めません。仏教は、身近な人の死という現実の中で、死という事実を静かに受け止め深く考え見つめていくことこそが、今を生きている私の生きる責任であり、また人間として大切な生き方であると教えているのです。

大切なことは、生まれる・老いる・病む・死ぬという人間の予測できない事実として「死」を受け止め、残った一人ひとりが生きている意味を見いだすことです。

私たちは、現に風習として根深く残

存している迷信や奇習を明確に否定していきたいものです。

清め塩はつかいません



「サンガ」より

# お知らせ

## 永代経会

八月七日(火)

十一時半

御齋

一時

寸劇

「オレオレ詐欺と

悪徳商法」

出演・まああるく参画一座の皆さん

一時半

永代経会法要

二時

布教 徳永寺住職

平等 明信師

三時二十分

物故者総墓収骨

永代経会とは、亡き人から願いをかけられて生かさせていたでいる私達が、亡き人に感謝申し上げる法会であります。

このかけがえのない法会に、ご家族、ご親族、ご法友お誘いあわせの上、何卒ご参詣下さいますようお願い申し上げます。



祐善寺

### 納涼祭2012

### 開催!

祐善寺で催される納涼祭も、今年で三回目を迎えることとなりました。昨年は、赤ちゃんをはじめ、百名を超す人たちが祐善寺に足を運んで下さいました。

ご先祖様が眠る祐善寺で、夏の日のひとときを心から楽しみ、良い思い出を残すことができるつて、とても素晴らしいことです。祐善寺での出会いは、尊いと思います。

まだ一度もお出でいただけていない方も、ご都合をつけて是非ともお越し下さい。毎年、ご参加していただいている方は、今年も是非ともおいで下さい。皆様とお会いできますことを楽しみにしております。(桑)



昨年の納涼祭。流しそうめんも大好評!

とき 八月五日(日) 午後二時〜  
ところ 祐善寺本堂&境内  
参加費 五〇〇円(中学生以下無料)  
メニュー

正信偈おつとめ・仏教入門クイズ  
バーベキュー/流しそうめん/フランクフルト/おにぎり/ドリンク各種 等々

★楽しい企画が一杯!



### 納涼祭ボランティア募集!

「祐善寺納涼祭2012」の準備、運営を支えて下さるボランティアを募集しております。

ご協力いただける方は、祐善寺までご連絡下さいますようお願いいたします。当日のみのお手伝いも、大歓迎です。一緒に「納涼祭」を楽しめるものにしていきましょう!

### 東日本大震災支援 不用品バザーご協力をお願い



昨年三月十一日に東北を襲った大震災の傷跡は、今なお、復興の途上にあります。

「祐善寺納涼祭」では、昨年も皆様のご協力により、大震災被災地支援不用品バザーを開催し、大変好評でした。バザー売上金は、全額、東本願寺震災復興支援センターへ送金させていただきます。

きました。

先般開催された実行委員会で、今年の納涼祭でも不用品バザーを実施しようとの声が強く、今年も大震災被災地支援不用品バザーを実施させていただきます。

つきましては、皆様のご家庭で眠っている不用品の提供をお願いいたします。

バザーでの売上金は、東本願寺復興支援センターを通じて、被災された真宗大谷派のご門徒・寺院へ直接届けられます。

ご協力下さいます方は、祐善寺へ一報下さいますようお願いいたします。

### 編集後記

★現在、高齢者とは、65歳以上の者となつてはいるが、この基準が変わるかもしれない。もつ少して、人口の4割が老人と呼び時代となる見通しだ。現在の日本人の平均寿命は、男79.55歳、女86.3歳で、老人天国となりつつある。65歳前後では、まだまだ元気で社会貢献のできる現状で、江戸時代の若年寄の名称が復活するかも…。

★先般来、「健康寿命」という新語が出てきた。病气や介護を受けずに、自立した生活ができる期間を示す。2年前に国が発表した健康寿命は、男70.42歳、女73.62歳である。今後、高齢者は健康寿命に心掛けて一日でも元氣な生活を営むことに留意したいものである。(上)